

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立晃宝小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 72人 |
| ② 算数 | 72人 |

5 留意事項

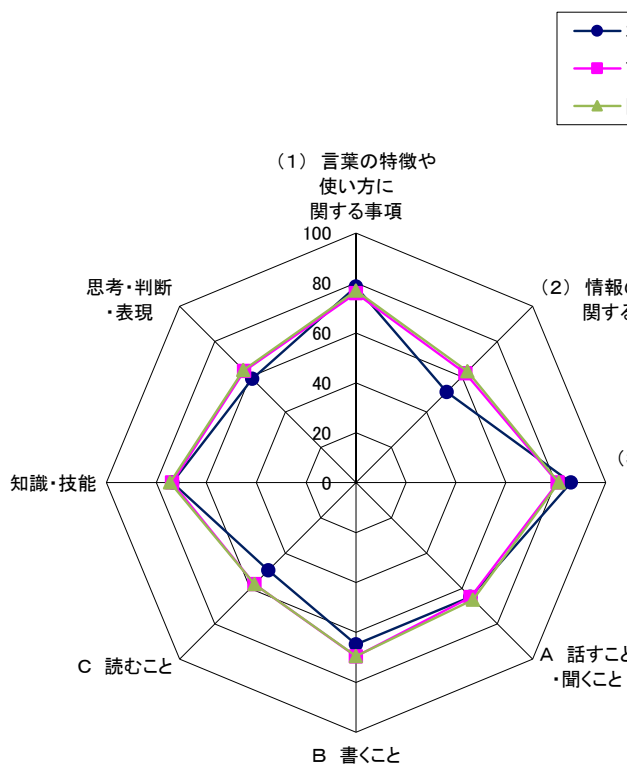
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立晃宝小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	78.5	75.9	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	51.4	62.0	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	86.1	80.8	81.2
	A 話すこと・聞くこと	64.8	64.9	66.3
	B 書くこと	64.8	69.6	69.5
	C 読むこと	49.7	57.5	57.5
観点	知識・技能	73.6	73.7	74.5
	思考・判断・表現	58.8	63.3	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

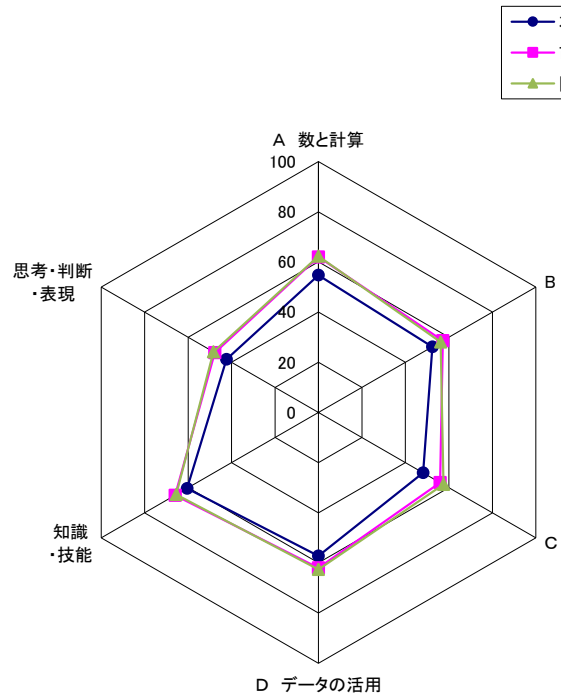
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市・全国の平均を上回った。 ○漢字を文の中で正しく使う問題では、2問とも全国の正答率を上回っており、身に付いている。	・今後も継続して、漢字の反復練習や文章を書く際に意識して漢字を使用できるよう指導していきたい。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ●情報と情報との関連づけの仕方を理解する問題では、正答率が全国より低く、課題が見られる。	・情報と情報との関連づけの仕方を捉える際には、話し合いの内容がどのように図に整理されているのか、その図はどのような意図でつくられているのかなど情報を分析しながら読み取る指導を進めていきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市・全国の平均を上回った。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて気付くことができるかの問題では、全国の正答率を4.9ポイント上回っている。	・読み聞かせや読書の際に昔の言葉が出てきたら、現在の呼び方や意味を確認していく。 ・古典の学習の際に、古文と現代語訳を照らし合わせ、意味や呼び方を確認しながら音読等の学習を取り入れていきたい。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討する問題では、正答率が全国より低く、課題が見られる。	・話し合いの目的や相手意識を大切にしながら、必要なことを質問し、答えてくれた内容をメモしてまとめることを取り入れた話し合い活動が効果的に行われるよう指導していきたい。 ・選択肢の文が似ている表現が多く、誤った選択をしていることがあるため、聞かれていて質問に対する答えとして適切なのはどれかを判断できる力を伸ばしていきたい。
B 書くこと	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ●書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える問題では、正答率が全国より低く、課題が見られる。	・提案書やちらし、パンフレット等の作成の学習の際には、文章の構成を最初にしっかり確認し、それを意識しながら作成させるよう指導していきたい。さらに、完成した文章を友達と読み合う際に、構成について意見交換を取り入れることにより、文章を構成する力を伸ばしていきたい。
C 読むこと	平均正答率は、市・全国の平均を下回った。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題では、正答率が全国より低く、課題が見られる。	・目的に応じて文章の内容を的確に押さえるためには、文章の重要な点を表現に即して的確に捉えることが必要である。普段から、自分の知識や経験などと関連付けながら読ませたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえながら文章を読ませたりといった指導を心掛けたい。また、読んだ文章の要旨にまとめる活動も積極的に取り入れていく。

宇都宮市立晁宝小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	54.7	62.0	62.3
	B 図形	52.4	57.2	56.2
	C 測定	45.8	54.4	54.8
	C 変化と関係	48.1	55.9	57.5
	D データの活用	57.2	62.0	62.6
観点	知識・技能	60.5	66.0	65.5
	思考・判断・表現	42.3	47.7	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

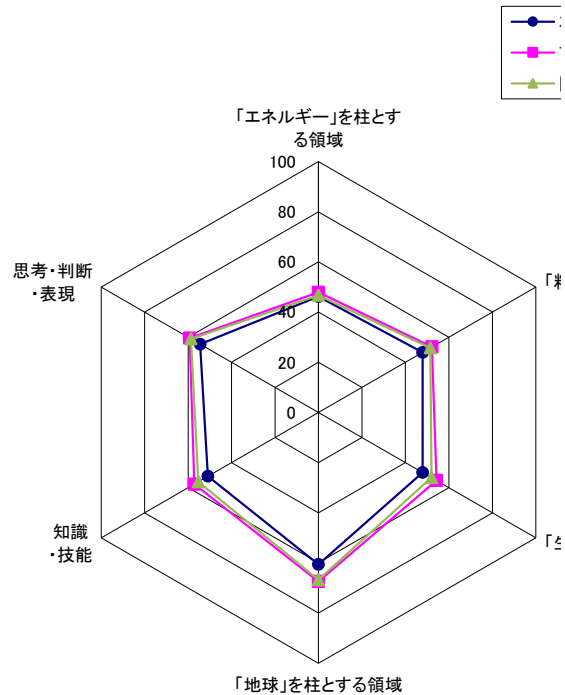
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>領域の平均正答率は市平均と比較して7.3ポイント、全国値と比較して7.6ポイント下回り、低い。</p> <p>●数直線上で、分数を単位分数の幾つ分と捉える問題では県の平均より1.7ポイント下回っている。</p> <p>●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題では、33.3%と正答率が低く、全国平均よりも15.4ポイント、県平均よりも14.2ポイント低い。</p>	<p>・分数の数の大きさを把握する問題の正答率が県の平均に近いのは、家庭学習等で計算練習に繰り返し取り組ませたことの結果と思われる。今後も継続したい。</p> <p>・文字の式や計算のしかたの説明の正答率が低い背景には、論理的に考えることの苦手がうかがえる。授業では、今まで以上に「考える」学習に力を入れていきたい。</p> <p>・ドリルやプリント・AI型個別ドリルなどに、計算の練習に繰り返し取り組み、基礎学力を定着させる。</p> <p>・様々な問題場面や状況に応じて、必要な数量やその関係を捉えることができるように、図や式に表して考えたり説明したりする機会を増やす。</p>
B 図形	<p>領域の平均正答率は市平均と比較して4.8ポイント、全国値と比較して3.8ポイント下回り、低い。</p> <p>○基本図形に分割することができる図形を求める問題を、式や言葉を用いて記述できるかをみる問題では、正答率が40.3%と、県平均よりも1.8ポイント、全国平均よりも3.3ポイント高い。</p> <p>●角の大きさについて理解しているかをみる設問では、正答率が69.4%であり、全国平均よりは9.9ポイント低く、県平均よりは9.8ポイント低い。</p>	<p>・多角形を基本的な図形に分割し、図形の面積を求める問題では、なぜそのような考え方をしたのかを記述したり説明したりする場の工夫（ICTの活用など）をしたためであると考えられる。今後も継続したい。</p> <p>・具体物の操作やICTの活用などを取り入れ、図形のもつ特徴を視覚的に理解できるようにする。</p>
C 測定	<p>領域の平均正答率は市平均と比較して8.6ポイント、全国値と比較して9.0ポイント下回り、低い。</p> <p>●はかりの目盛りを読むことができるかをみる問題では県平均より3.0ポイント、全国平均よりも2.6ポイント下回っている。</p>	<p>・はかりなど具体物を通して指導する。また、タブレットなどICTを活用し、データを整理し、分かりやすくグラフに表すことのよさを実感させるとともに、他教科との連携を図りながら、日常的なデータ活用の機会を設け、学習理解につなげる。</p>
C 変化と関係	<p>領域の平均正答率は市平均と比較して7.8ポイント、全国値と比較して9.4ポイント下回り、低い。</p> <p>●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題では33.3%と正答率が低く、県平均よりも14.2ポイント、全国平均よりも15.4ポイント低い。</p>	<p>・定価と値引きの関係や割合を求める問題などは、日常の様々な場面を例に取り上げながら、実生活と関連付けた事象を取り扱うことで興味関心をもって学習に取り組めるように工夫する。</p> <p>・二つの数量の変化と関係を求めるための知識の定着を図るため、プリントやドリル学習等を通して繰り返し指導する。</p>
D データの活用	<p>領域の平均正答率は市平均と比較して4.8ポイント、全国値と比較して5.4ポイント下回り低い。</p> <p>○二次元の表から条件に合った項目を選ぶことができる問題では、県平均より3.3%と正答率は高い。</p> <p>●棒グラフから項目間の関係を読み取ることができる問題では、県平均よりも8.0ポイント、全国平均よりも10.6ポイント低い。</p> <p>●目的に応じて適切なグラフを選択し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかをみる問題では、県平均よりも</p>	<p>・下学年のうちから、教師が「比べる」「整理する」など学習のつながりやキーワードを意識して指導し、高学年で多面的にデータを分析・判断できる数学的な見方・考え方を養っていく。</p> <p>・問題文を読み、グラフから数量関係を把握することの苦手がうかがえる。算数では問題を解く際に、グラフや表などからICTを活用して分かりやすい表現方法に変えて考えたり、整理したりすることで理解の向上に力を入れたい。</p> <p>・様々なグラフなど他教科との連携を図りながら、学習を取り組ませる。また、今まで以上に「説明する」学習に力を入れていき</p>

宇都宮市立晁宝小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	46.2	47.9	46.7
	「粒子」を柱とする領域	47.9	52.2	51.4
	「生命」を柱とする領域	47.9	54.3	52.0
	「地球」を柱とする領域	60.6	67.4	66.7
観点	知識・技能	50.9	57.2	55.3
	思考・判断・表現	54.5	59.3	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市・全国の平均を下回った。</p> <p>○電気を通す金属や磁石に引き付けられる金属について解答する設問では、市・全国の平均を1ポイント以上上回った。</p> <p>●電磁石を強めるために、電磁石の巻き数をどうすればよいか解答する設問では、市・全国の平均を約5ポイント下回った。</p>	<p>・基礎・基本的な知識の定着のために、授業の最初に用語を確認するクイズを出題したり、AIDリル等を活用し繰り返し問題演習に取り組んだりできるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市・全国の平均を下回った。</p> <p>○水の温まり方について、問題のまとめを言うために調べる必要があることを表現する設問では、市・全国の平均を共に3ポイント以上上回った。</p> <p>●水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷が減少した理由を解答する設問では、市・全国の平均を共に10ポイント以上下回った。</p>	<p>・実験で確かめたいことを基に、実験の方法を考えたり結果を予想する力が高まっている。今後も、めあてや予想に立ち返りながら、何を確かめるためにどんな実験を行えばよいかを考える活動を意識的に取り入れていきたい。</p> <p>・学んだことを生活上の問題に活用して考える問題に課題が見られた。各授業や単元のまとめの際に、教師から生活との関連を示したり、児童自身が考える時間を設けたりして、理科の学びが生活に役立つことを実感できるようにする必要がある。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市・全国の平均を下回った。</p> <p>○ヘチマの種子の発芽の条件を調べる実験において、条件を制御した実験の方法を選ぶ設問では、市・全国の平均を共に6ポイント以上上回った。</p> <p>●レタスの種子の発芽の結果から新たな問題を見出し、表現する設問では、市の平均を8.8ポイント、全国の平均を6.3ポイント下回った。</p>	<p>・自身が得たい実験の結果に合わせて、条件を制御しながら実験の方法を考える力が高まっている。今後も実験の方法を考える際には、変える条件と揃える条件を図や表を用いて、整理しながら考えられるようにしたい。</p> <p>・実験の結果から新たな問題を見出し、表現する問題に課題が見られた。教師から調べる問題を提示するだけでなく、児童が自ら問題を発見し、書き表せるような授業の構成となるように工夫していきたい。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市・全国の平均を下回った。</p> <p>○赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方について、実験の結果を基に、まとめを導いた理由を表現する問題では、市と全国の平均を共に上回った。</p> <p>また、記述式の問題であったが、無回答率が市や全国の平均を約2.5ポイント下回った。</p> <p>●6つの設問のうち、市や全国の平均を上回った設問は1問のみであった。</p>	<p>・実験の結果を基に、考察し、まとめる力が高まっている。今後も授業の中で、考察やまとめについて、自身で書き、友達と伝え合い、深め合う活動を意識的に取り入れて表現する力を高めていきたい。</p> <p>・写真やビデオ教材を有効に活用したり、児童自身が調べまとめる活動をこれまで以上に取り入れていくことで、理科の授業で学んだことと児童自身が住む地球との繋がりを、より実感していけるようにしていきたい。</p>

宇都宮市立晁宝小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問では、国語と算数において、「当てはまる」と答えた児童が全国平均に比べて高く、70%以上であった。「どちらかといえば当てはまる」も合わせた肯定割合はどちらも90%を超えており、自分の将来と現在の学習とのつながりを意識しながら学習ができていることが伺える。

○「国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらについて、どのように解答しましたか」への質問では、「最後まで書こうと努力した」と回答したのは86.3%であった。
 「算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題がありました。それらについて、どのように解答しましたか」で「最後まで書こうと努力した」と回答したのも86.3%であった。
 「理科の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらについて、どのように解答しましたか」で「最後まで書こうと努力した」と回答したのは89.0%であった。

これらの解答は県や国の平均と比べいずれも高い割合を示しており、本校の児童が最後まで粘り強く問題に取り組んでいる様子がわかる。特に、算数では県や国と比べ10ポイント以上高く、理科は県とは5ポイント程度、国とは7ポイント以上高い割合となっており、児童が問題に対して真剣に取り組んでいたことが分かる。

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」での肯定割合は93.4%であった。これは県と比べ2.6ポイント、国と比べ6ポイント高い割合であった。これらの結果は教員の姿勢だけでなく、児童が分かるまで取り組もうという意欲があるからこそその結果であると推測される。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で学習している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」では、「全くしない」と回答したのは国と比べて低いものの、「1時間以上」と答えたのが33.4%と県や国と比べて20ポイント以上低い値となっている。ここから、全く勉強していない児童は少ないものの、宿題以外の学習に割く時間が短いのではないかと推測される。宇都宮市では高学年は60分以上の学習を推奨していることから、少しずつ自分の興味関心や苦手に合わせて学習ができるよう、支援していきたい。

●「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」では、「できている」と答えたのは16.0%で、県や国と比べて15ポイント以上下回っている。「どちらかといえば、できている」も含めると、70.7%であるが、こちらも県や国と比べて低い値である。総合的な学習の時間などを中心に、自分で考え調べるといった経験を大切に、様々な調べ方を積極的に提案していきたい。

宇都宮市立晁宝小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○基礎・基本の確実な定着	○学習用具の準備や学習のきまり、話し方・聞き方等の学習態度や学習技能を育てるための指導を学校全体で共通理解し取り組んでいる。 ○適切な宿題、自主的な学習内容や方法の提示による家庭学習の習慣化	○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定回答割合は62.7%であるが、県の平均を19.1ポイント下回った。 ○平日の学校以外の学習時間について、1時間以上と答えた割合が33.4%と県の平均よりも23.8ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○基礎・基本が十分に定着していない ○記述式問題の正答率の低さ、無回答率の高さ	○基礎・基本の定着を目指す学習指導の工夫 ○「書くことキャンペーン」の実施	○漢字や計算の定着のための朝の学習タイムを計画的に実施していく。 ○書く活動を充実させるための工夫を職員研修で紹介し合い、継続して実践していく。